

追儺式（長田神社）

鬼といえば、2月の節分の日には豆で追い払われているイメージがあるかもしれませんが、神戸市の長田神社で行われる「追儺式」は、神に代わって災いをはらう「善鬼」が出てきます。「一番太郎鬼」に続き、赤鬼や青鬼らが燃え盛るたいまつを振り、火の粉をまき散らしながら踊って厄をはらいます。室町時代から続くといわれるこの「追儺式」は、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

身振り狂言（大覚寺）

尼崎市にある大覚寺で毎年2月3日に行われる節分会では、豆まきや「大覚寺身振り狂言」などが行われ、春を告げる風物詩となっています。この身振り狂言は、1840(天保11)年に奉納されていたといわれる伝統的な行事で、県の「ふるさと文化」賞も受賞しています。江戸時代末から明治時代にかけて途絶えていましたが、狂言の復活が望まれ、1953(昭和28)年の節分会から復活しました。演目は「節分厄払」「橋弁慶」「閻魔庁」のほか、琵琶法師にまつわる伝説をもとにした「十王・一堂」や、かつて大覚寺があった大物を舞台に源義経と静御前の別れを描いた能楽「船弁慶」を題材にした「大物之浦」など、せりふがなく身振りだけで演じられます。